



その日の夜、男の子は
支配されてしまう夢を

どうなるでしょう。
もし世界にばい菌しかいない

友達や家族はどうなるんだろう、
などを考えて、いつ
つはあるのかな。

つ

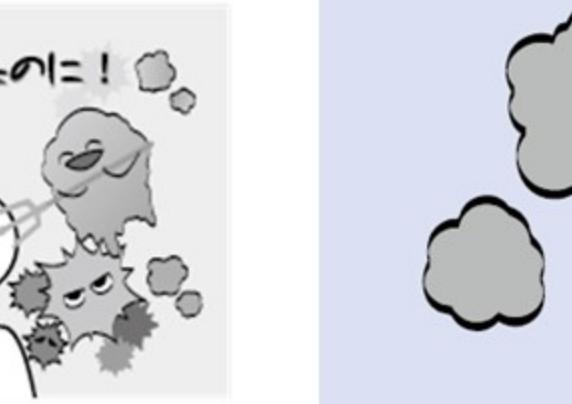
男の子
「もうおしまいだ・・・」

男の子は落ち落ち込んでしまった

男の子



手を洗つたのに！



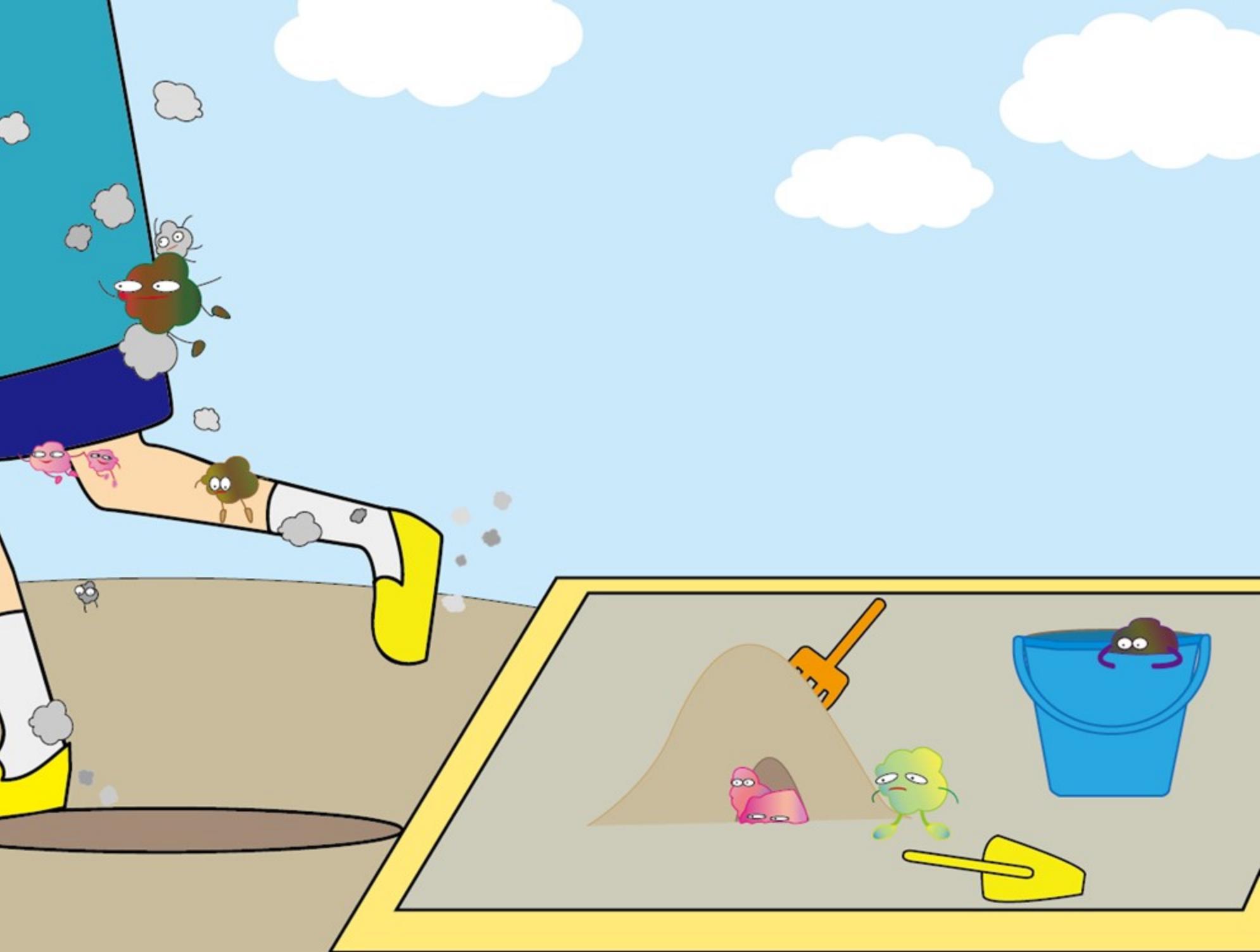
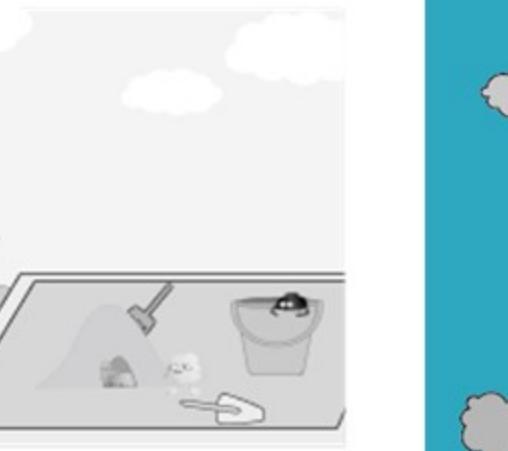
でもみんな、おやつに夢中
ばい菌に気づいていないみたいで

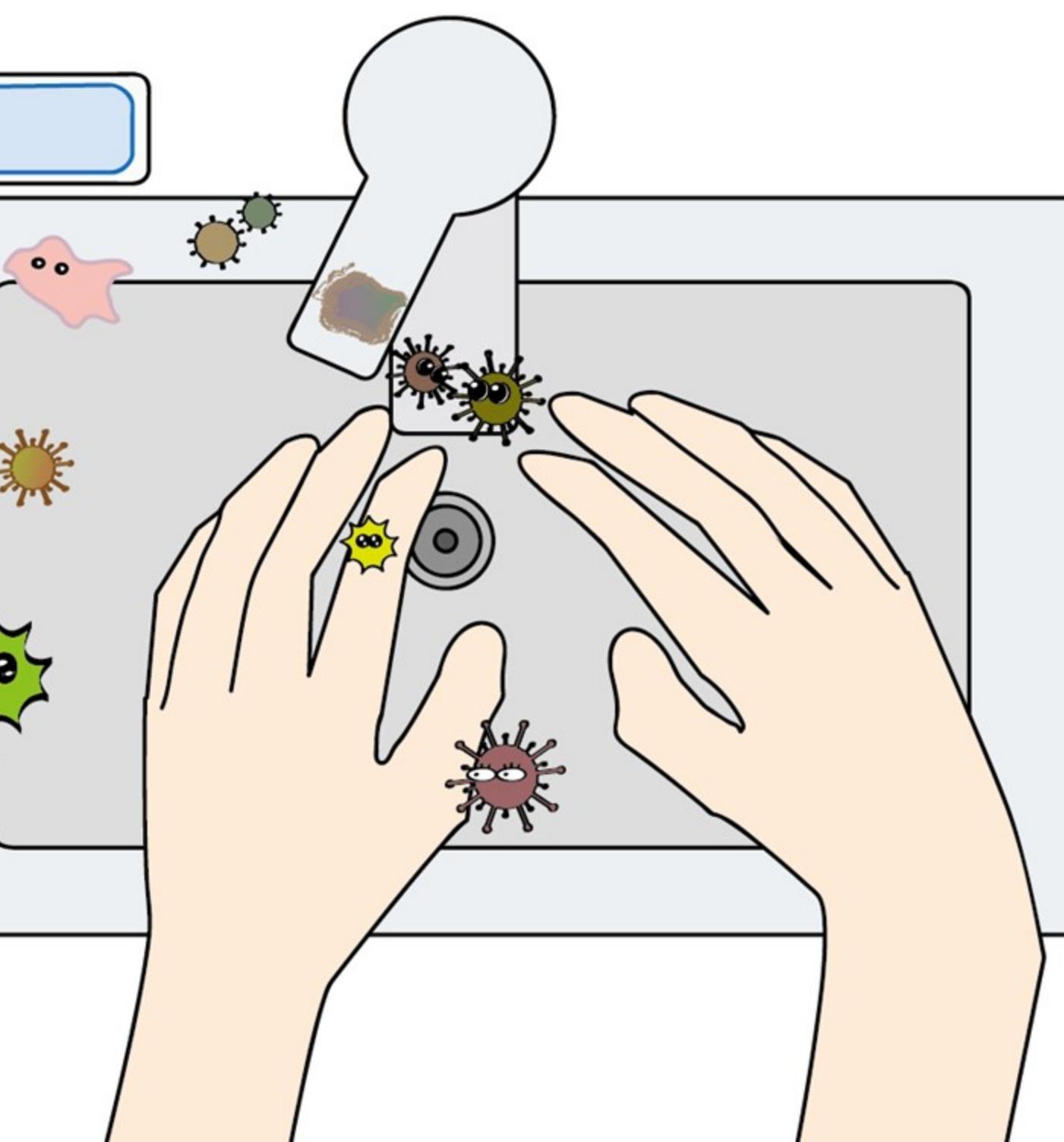
すると、今まで隠れていたばい菌たち
もみんな出てきました

の中へ走つて行きます

先生
「みんなーおやつの時間よ」
先生がそう言うと、みんなは幼稚園

これは ある男の子の話です





先生

「手を洗った人から順番ね」

先生がそう言うと、みんな急いで手を洗いに行きます

でも、一番におやつを食べたい男子は、手を洗ったふりをしました

先生はそれを見ていました

いじけた男の子は手を水で濡らすだけで洗ったふりをしました

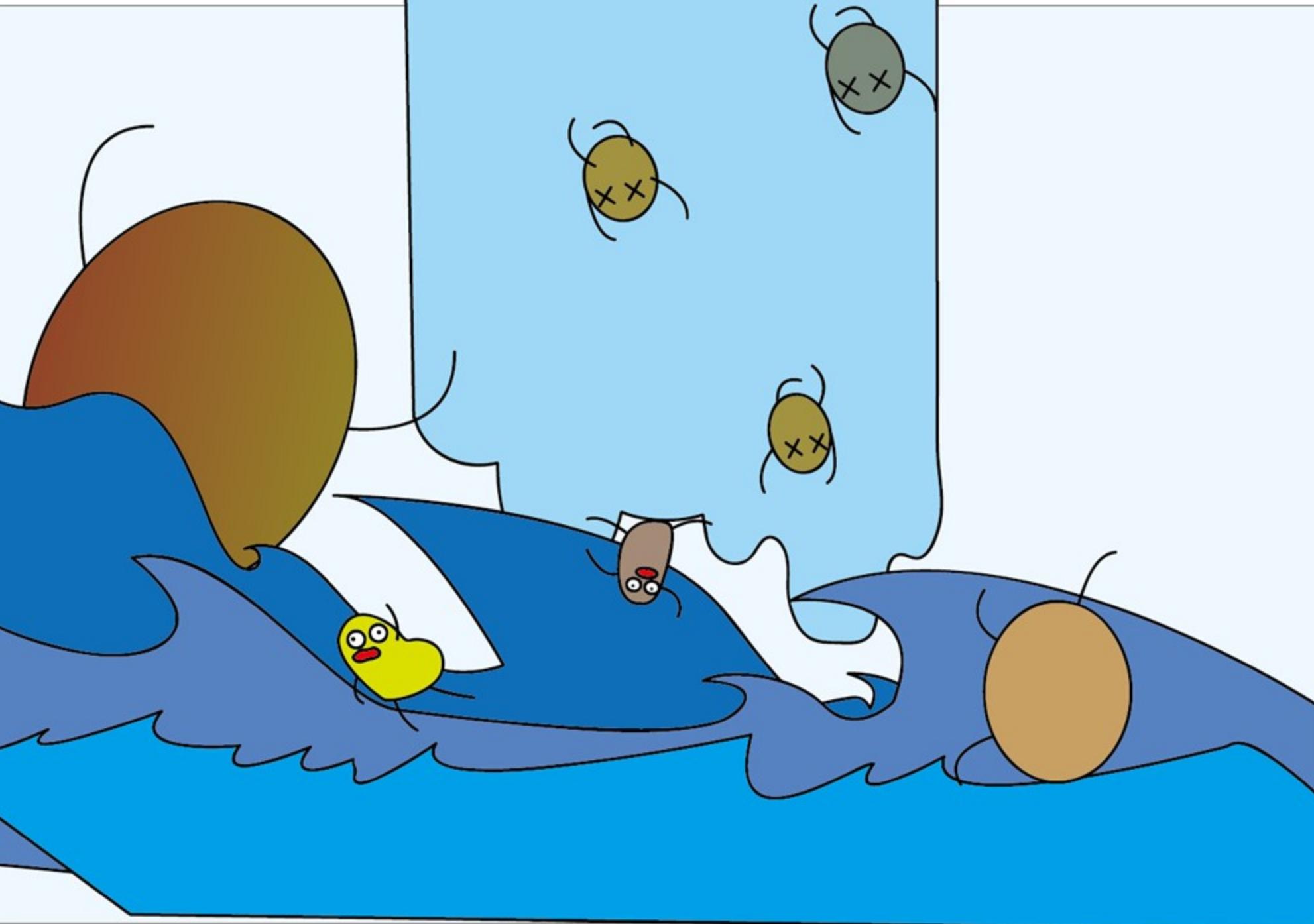
ばい菌
「もしかして、手をちゃんと洗っていないのかなあ」

ばい菌
「ばい菌が一番怖がっていたせっけんは、いつまでも流れきません

ばい菌
「せっけんが流れてこない！」

そして、なかまたちが次々流れいくなか、あるばい菌が気づきます

ばい菌たちは、いきなり水が流れきてびっくりしました



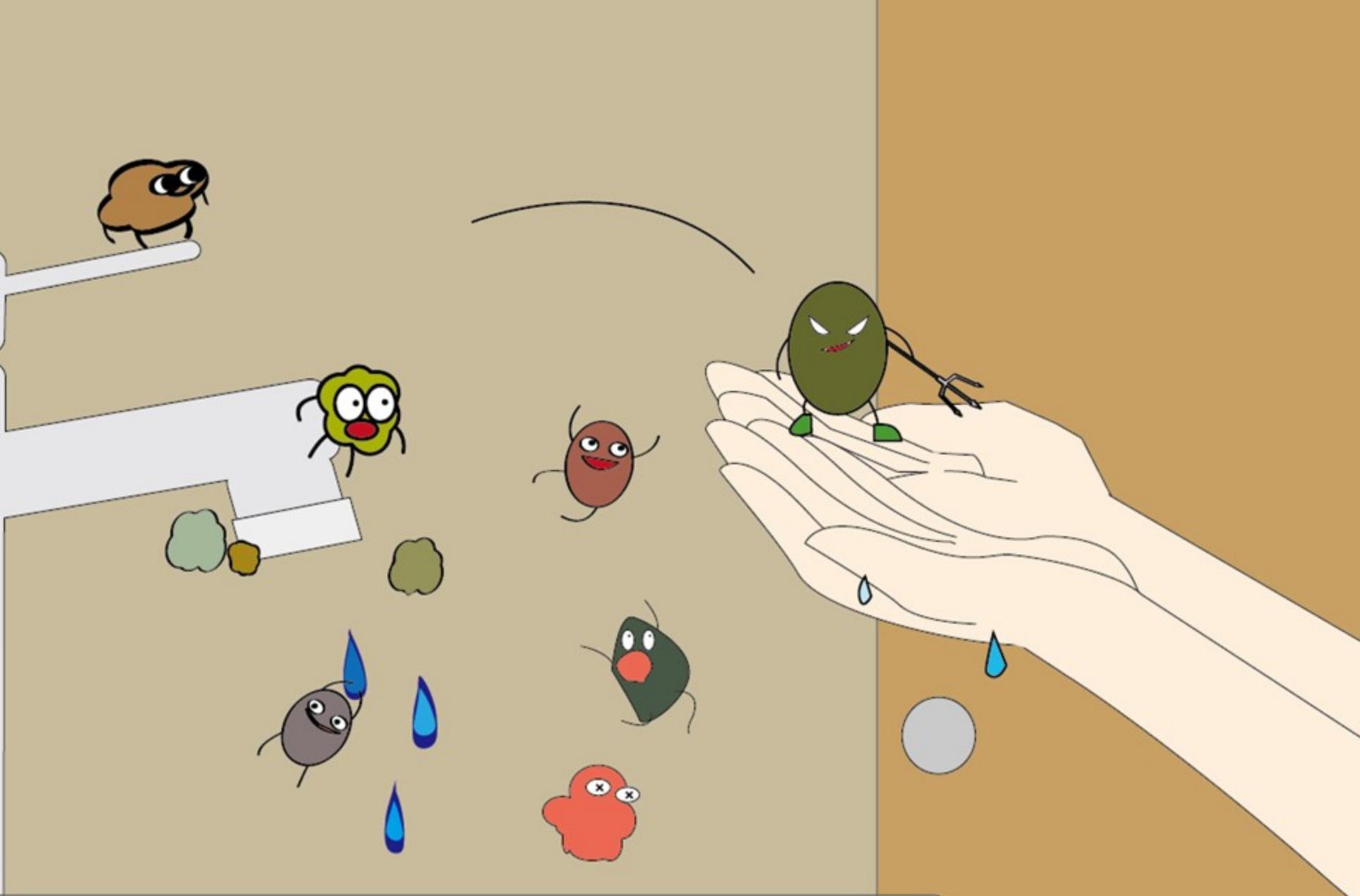
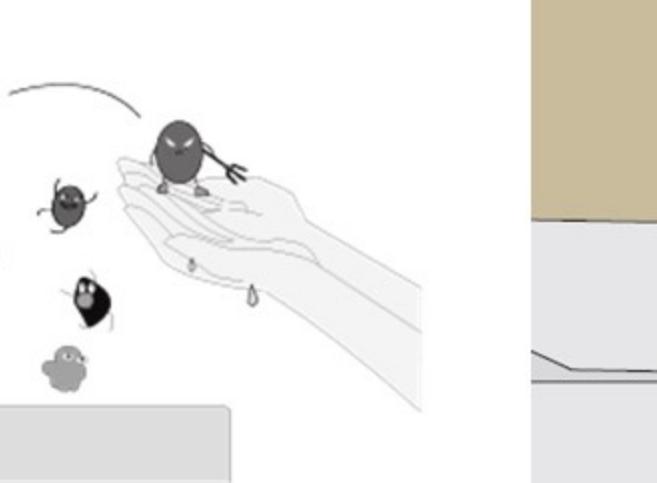
水がとまつたとき、飛び出します

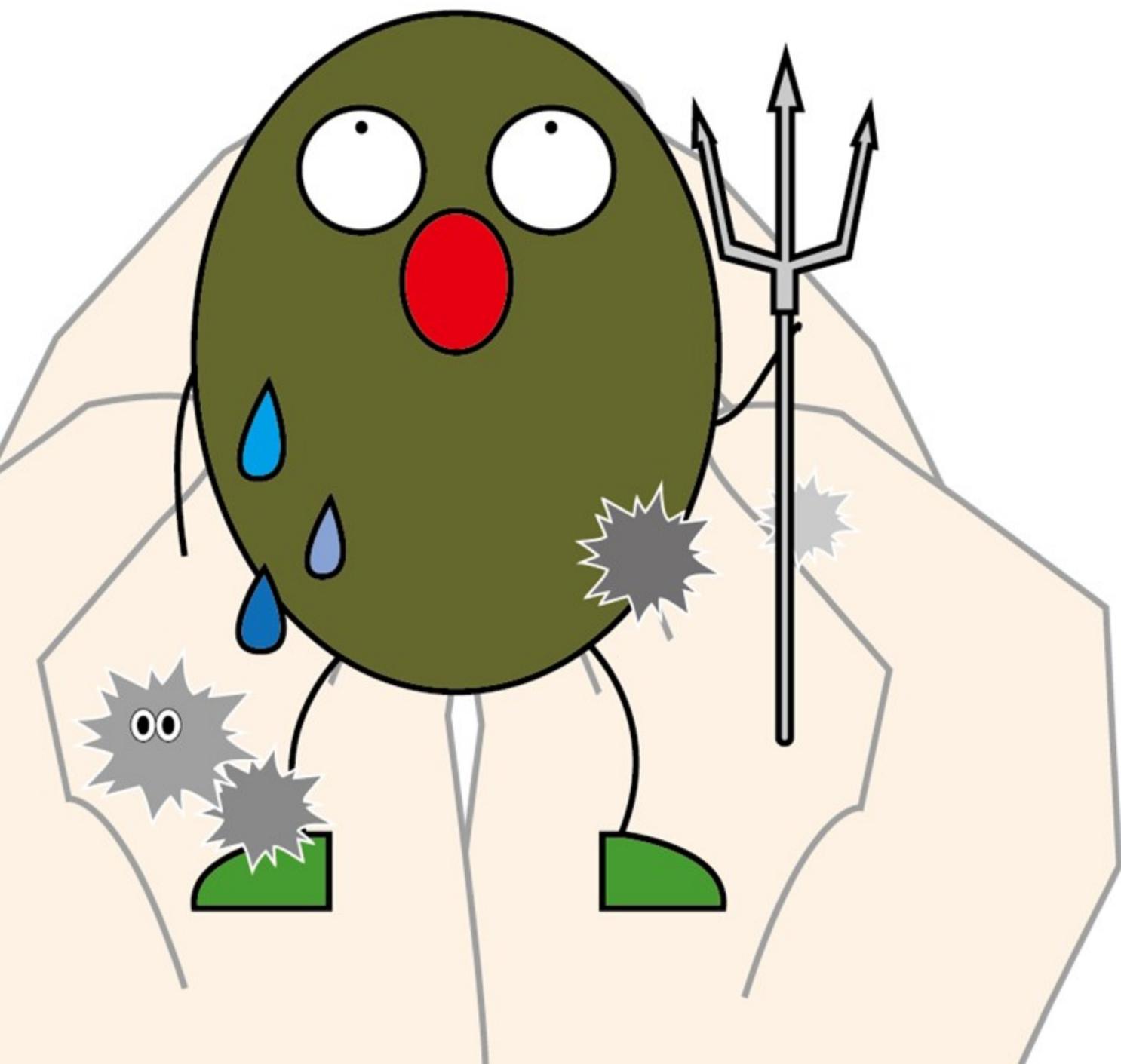
「この男の子についていけば、きっとおやつが食べられるぞ！」

ばい菌

ばい菌たちは、みんなで男の子に飛び移ることになりました

ばい菌
「まだ！！」





ばい菌
「ん？」

ばい菌が立っているところは、地面とも
机とも違いました

上を見ると、なんと目の前いっぽいに
人間の顔が広がっていました

ばい菌
「うげつ！」

ばい菌の仲間たち

「人間だ！」「人間に捕まる！」

ばい菌の仲間たちは捕まってしまうと
覚悟を決めました

男の子
「うぎや～～！」

たくさんのばい菌に気づいた男の子は、
またびっくりした声を出しました



男の子

「うわ～！？」

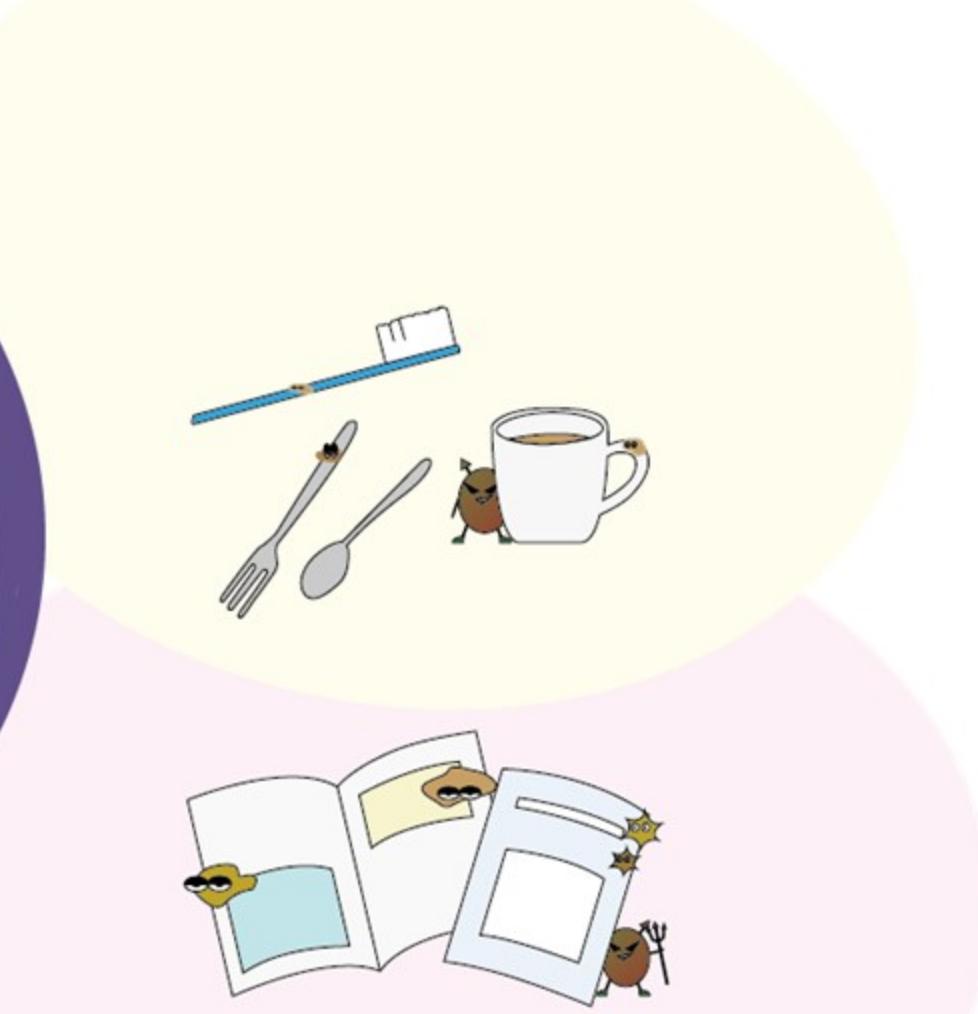
男の子もまた、ばい菌にびっくりして
いました

そして、隠れていたばい菌の仲間たちも
その声にびっくりして出てきました



一度そう思うと、周りを見渡したとき、
全てにばい菌がいるように見えました

「もしかして」
「もしかして世界はばい菌に支配されて
いるんじや」



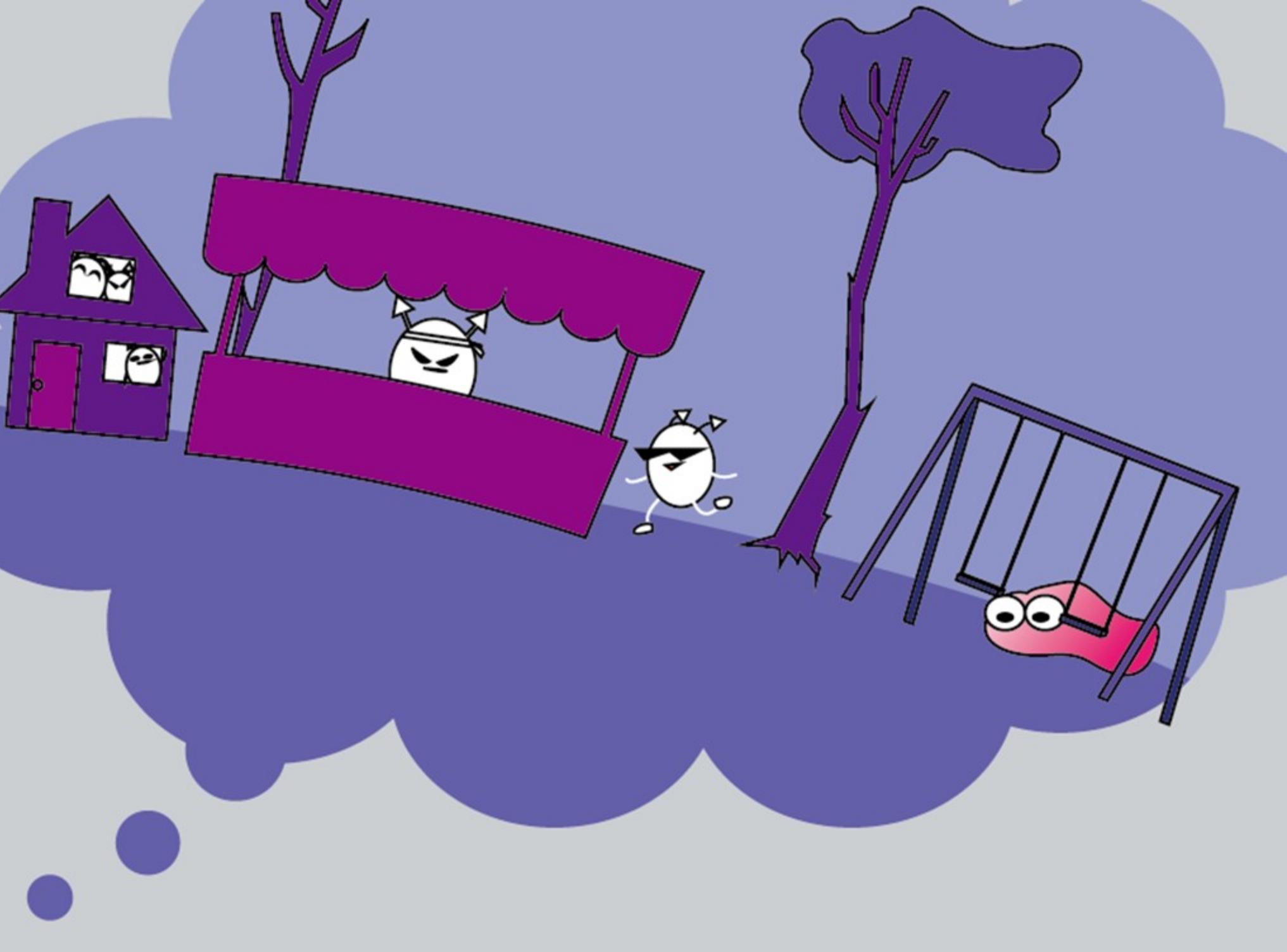
男の子
「もうおしまいだ・・・」

男の子は落ち落ち込んでしまいました。

友達や家族はどうなるんだろう、おやつはあるのかな、などを考えていました。

もし世界にばい菌しかいなくなつたらどうなるでしょう。

その日の夜、男の子は世界がばい菌に支配されてしまう夢を見ました。



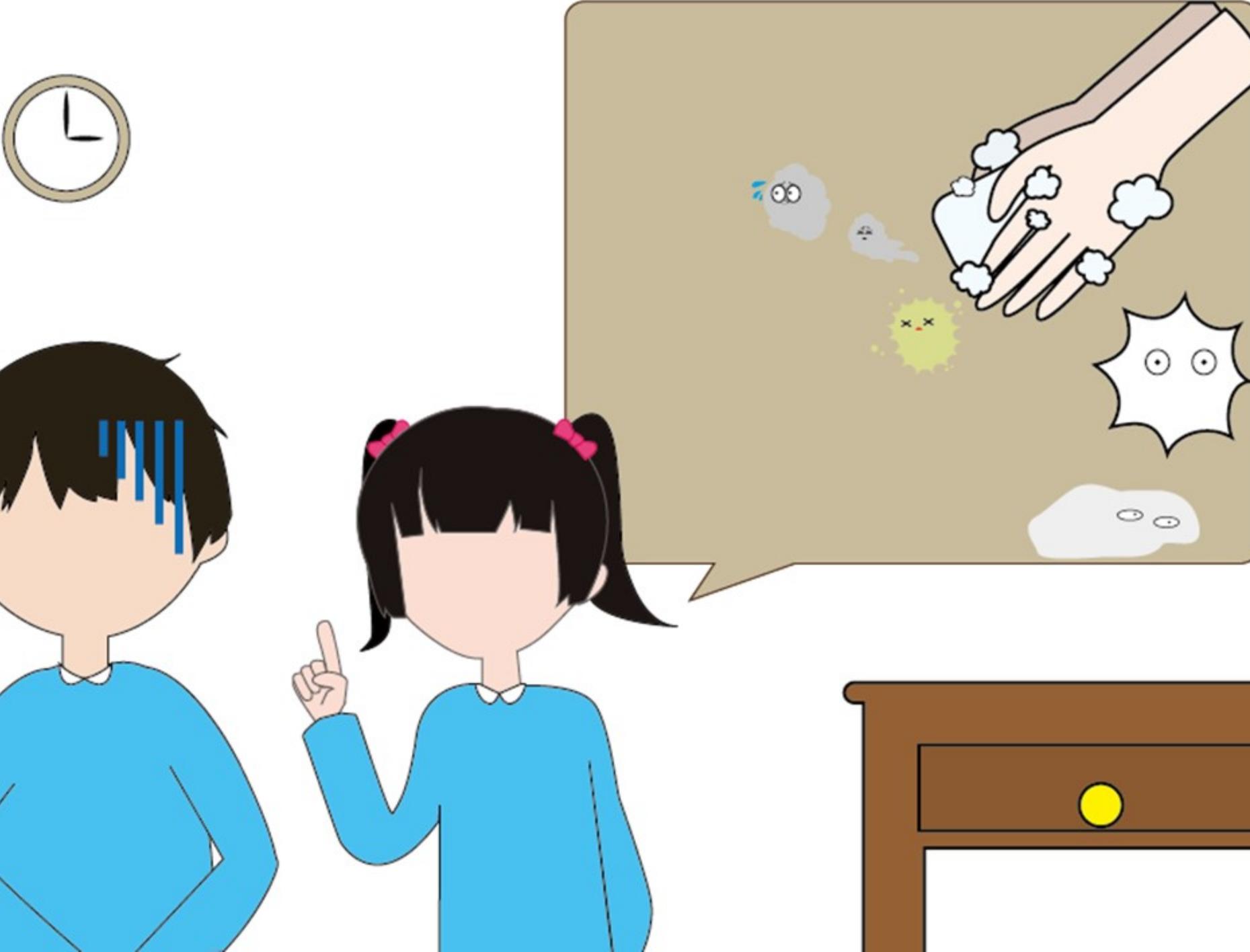
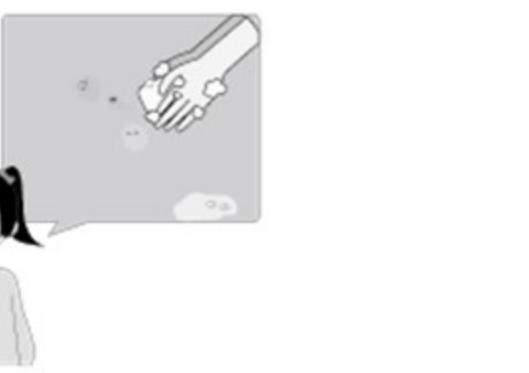
友達
「石鹼を使わないの？使った方がきっと
ばい菌もいなくなるよ」

そこへお友達がきて教えてくれました。

またばい菌が現れたらどうしよう、そ
う思うと、手を洗いにいくのが怖くなり
ました。

ですが、今日は少し違いました。

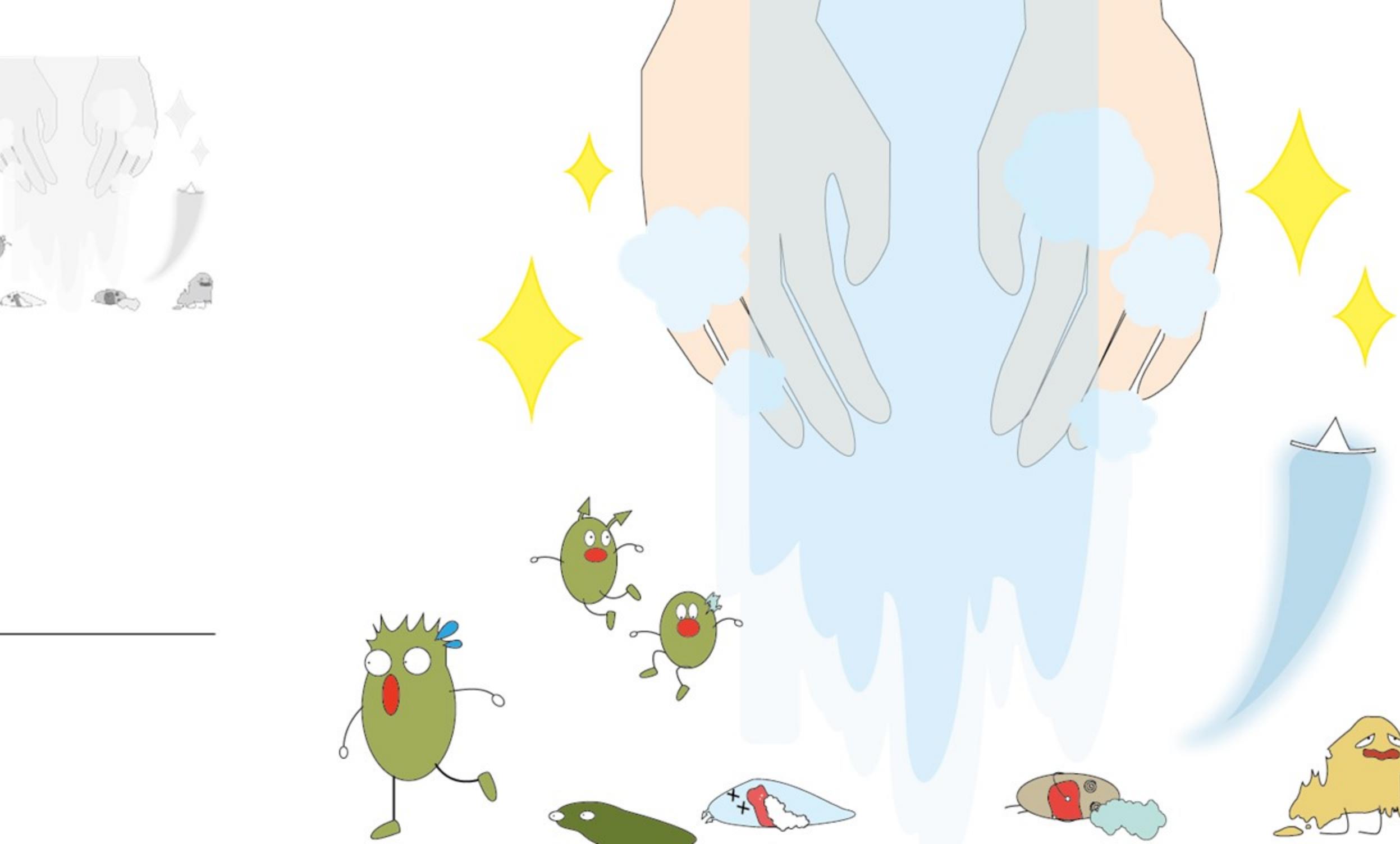
次日の日、男の子の大好きなおやつの時
間がきました。



男の子は、ちゃんと石鹼を使い、時間をかけて洗うことで、ついにばい菌を倒せる！と自信がつきました。

家についてからもう一度手を洗いました。

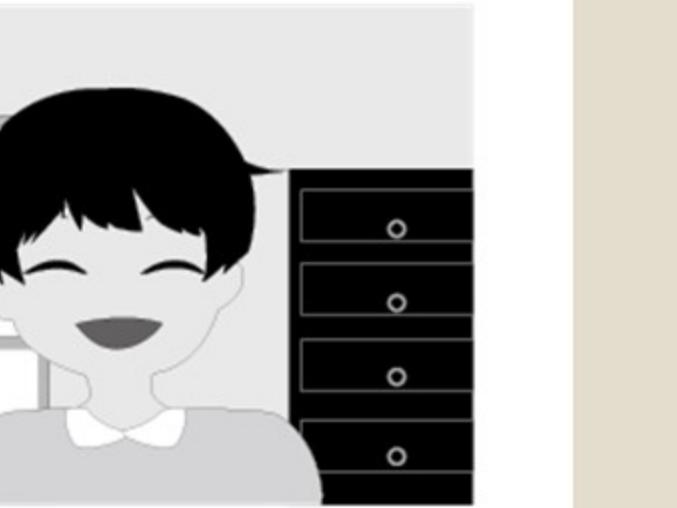
するとなんだかばい菌を退治できたような気がしました。



男の子は朝まで落ち込んでいたのが嘘
のようにななりました。

そして、あの時出会ったばい菌ともう
一度出会いました。

ですがもう男の子は驚きません。あの
時と違つて、きちんと手を洗えます。

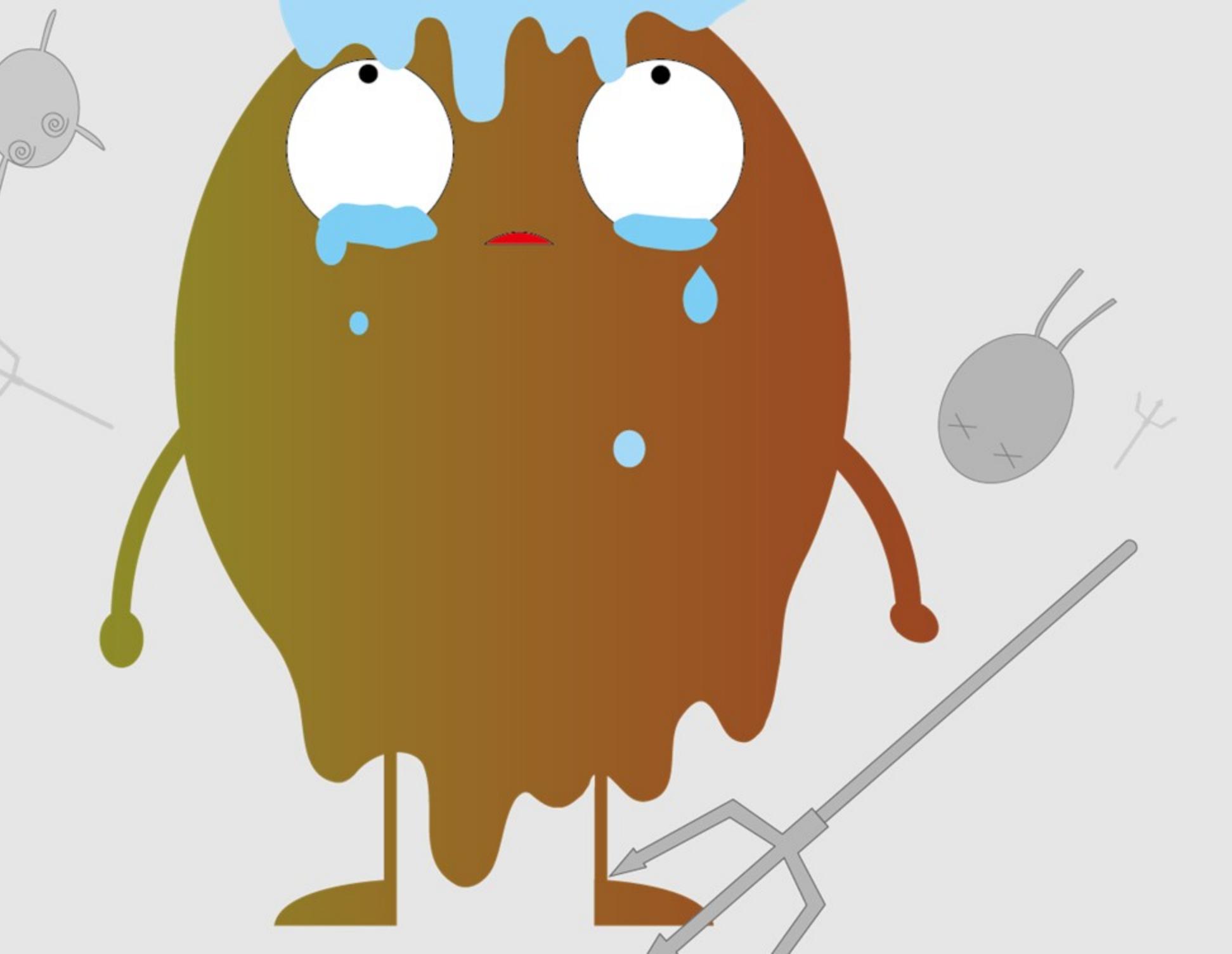
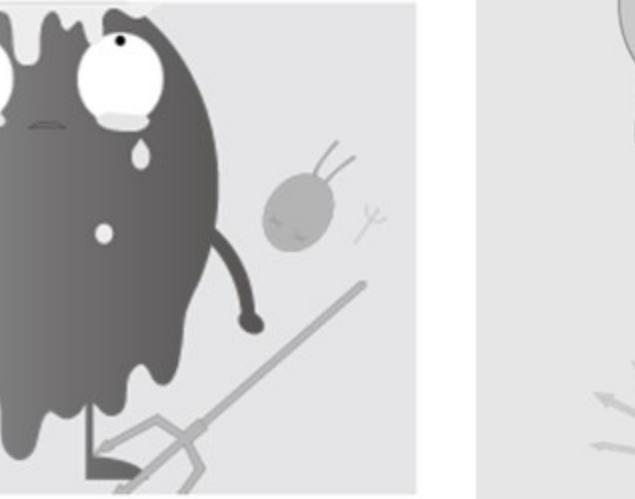


その言葉にばい菌は、もう悪いことはないと約束しました。

男の子
「僕もきちんと手を洗うから、もう君も悪いことはしない?」

しかし男の子はすぐにはばい菌やつつけませんでした。

また見つかってしまい、今度こそばい菌は退治されてしまうと思いました。



もしかすると、今も手を洗わない子たちのことを、どこから見ているかも知りません・・・。

そしてまた、新しくついていく子を探す旅に出ます。

ばい菌は反省したのではありませんでした。

「危なかつた、これでもう安全だ。今度は手を洗わない子を探そう」

